



住民の懇親を深めた仮設住宅での餅つきイベント（熊本県宇城市）

Sticky rice cake pounding event cultivating friendship among residents in temporary housing (Uki city, Kumamoto)

## Newsletter

【ソフトバンク株式会社のアプリ「かざして募金」でこの SEEDS のロゴをかざすと簡単に寄付ができます。】

### Table of Contents Vol.55 (Nov., Dec. 2016)

- ・ 熊本：熊本地震被災者支援
- ・ 丹波市：丹波市町づくり共同事業
- ・ 東北：東日本大震災被災者支援事業
- ・ バングラデシュ：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業
- ・ インド：参加型コミュニティ防災推進事業
- ・ ミャンマー：USAID の能力強化支援プロジェクト
- ・ フィリピン：セブ州における防災教育の技術移転事業
- ・ ネパール：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト  
& 2015 ネパール地震被災者支援事業
- ・ 日本：JICA 研修 - 防災の主流化研修
- ・ Project on Support for people affected by Kumamoto Earthquake
- ・ Joint Project with Tamba City on Community Development
- ・ Project on Support for people affected by Great East Japan Earthquake & Tsunami
- ・ Bangladesh: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh
- ・ India: Project on Participatory Community-Based DRM
- ・ Myanmar: Project on Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management
- ・ Philippines: Project on DRR Education with School- Community Linkage in Cebu
- ・ Nepal: Project on Capacity Building of DRM for Village Development Committees & Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015
- ・ Japan: Training in Promotion of Mainstreaming DRR



(特定非営利活動法人 SEEDS Asia)

〒658-0072

3-11-30-302 Okamoto,

Higashi Nada ku, Kobe, Japan

神戸市東灘区岡本3-11-30-302

Tel: 078-766-9412

Fax: 078-766-9413

Email: rep@seedsasia.org

Web: www.seedsasia.org

Facebook: <http://www.facebook.com/pages/SEEDS-Asia/206338119398923>



## 熊本地震被災者支援

## 【ジャパン・プラットフォーム】

SEEDS Asia は、宇城市では、10 月に開設された地域支え合いセンターの運営支援を行っております。地域支え合いセンターの活動は、11 月に入り、仮設住宅への戸別訪問や定期的なお茶会の開催に加え、徐々に支援活動の領域が広がっています。

## 被災者支援の広がり

宇城市に 6 力所ある仮設住宅団地のうち、集会所が設置されているのは 3 力所のみです。残りの仮設住宅団地は 10 ～ 20 世帯と小規模のため集会所がなく、気軽に集える場がありません。そこで、地域支え合いセンターは近くの公民館の一室を借り、仮設住宅へ住民の方たちを誘いに行く形でお茶会を実施するなど、工夫をしながら住民との交流を図っています。

また、仮設住宅以外の民間のアパートなどに引っ越しを余儀なくされている被災者への支援も始まりました。まずはアンケートを送付し、電話や必要に応じて訪問をしながら相談対応を行っていく予定です。

## 地域との連携づくり

復興に向けては、仮設住宅内のみならず目を向けた支援だけでは不十分です。地域と連携した支援を行うことは、結果的に仮設住民だけではなく、地域にとっても、より安心して住みやすいコミュニティづくりにつながります。



餅つきイベント

そこで、地域支え合いセンターでは餅つきイベントを企画し、準備段階から仮設住民にも参加していただきました。また、地域のボランティア団体、婦人会、地元の中学生たちにも協力を呼び掛け、参加者につきたてのお餅や豚汁を振舞いました。「餅つきという協働作業を通して、住民達の繋がりがだけでなく、支援する側のつながりもでき、一体感をもつことができたのが良かった」との声もありました。

## 東日本大震災教訓を伝える

12 月 6 ～ 11 日、SEEDS Asia の東北事業のパートナーであるボランティアステーション in 気仙沼のスタッフ 2 名を宇城市に招へいし、地域支え合いセンターの相談員に、東日本大震災時にはどのような被災者支援を行ったか、その心構えや対応方法に関する体験談を伝えました。実際に現場で課題となっているケースの質疑応答、被災者への配慮の仕方、そして相談員自身のメンタルヘルスについてなど、様々な観点からのアドバイスが話されました。相談員からは「具体的な例を挙げての説明で、よく分かった」「相談員としての悩みを聞いていただき、元気が出た」などの感想がありました。



東日本大震災の体験を伝える



## 丹波市：丹波市まちづくり協働事業

## 【丹波市まちづくり協働事業 /CWS Japan (UMCOR)】

## 防災指定校連絡会議（第 5 回）の開催

2016 年 12 月 16 日、丹波市教育委員会、防災指定校の 4 校の代表者と SEEDS Asia が集まり、2016 年最後となる、第 5 回防災指定校連絡会議を開催しました。

本事業では、2014 年の丹波市豪雨災害の教訓を踏まえた防災授業を同市内全域で実施できるように副教材を作成することとしており、第 5 回の会議では、その副教材の内容について議論しました。特に、兵庫県の防災教育の知見をインプットするために、丹波市内で活躍する EARTH（震災・学校支援チーム）のメンバー 2 名にも参加して頂き、教材案に対する助言を頂きました。

この会議の終了後、引き続き、丹波市教育委員会と SEEDS Asia で議論を重ねました。その結果、①丹波市では、小学校低学年、高学年、中学校の段階で、副教材を活用した防災授業を 1 ～ 2 時限実施することとする、②副教材は、「丹波の災害について知る」「災害時の対応について知る」「人とのつながりについて知る」の三部構成とする、という方針で作成を進めることになりました。

副教材は、2017 年の 2 月中旬に、丹波市内の全小中学校から教頭を招へいして実施する研修会にてお披露目できるよう、作成を進めます。そして、各学校にて防災授業を推進する際に副教材が活用できるよう、研修を行う計画としています。



防災指定校連絡会議（第 5 回）での議論





## 東北：東日本大震災被災者支援事業

### 【UMCOR・CWS Japan 支援事業】

#### 階上地区での総合防災訓練

2016年11月5日の津波防災の日に、気仙沼市全域で総合防災訓練が行われました。階上地区では、SEEDS Asia がアドバイザーを務める階上地区防災教育推進委員会において訓練の企画会議を重ね、当日は、同地区内の18の自治会が参加し、階上小学校、同中学校と合同で防災訓練が実施されました。

午前9時に地震が発生したという想定で、各地区の一時避難所に住民が避難し、避難者リストの作成や炊き出しの実施訓練が行われました。階上小学校の防災マップづくり授業でまちあるきを行った階上地区内の最知高では、薪を燃やして炊き出しが行われ、また、消火器を使った消火訓練も同時に行われました。

階上中学校に隣接する長磯原では、防災運動会が行われました。アイデア満載の競技に寒さも忘れ盛り上がりしました。

午後は、階上中学校の体育館で避難所設営、運営訓練が行われました。流石に慣れたもので、無駄口もさぼる生徒も無く、軍隊の様にあってという間に避難所を作り上げました。怪我人や高齢者役の生徒をてきぱきと捌いていく様子を見ながら校長は、「他の学校に見せてあげたい、こんな生徒達は他には居ない。」としきりに感心していました。校長は2016年4月に宮城県の中部から異動で来たばかりで、階上地区の震災に対する意識の高さに驚いていました。校長は、「来年は必ず参観日にして父兄にも見せたい。」と抱負を語りました。



訓練で本当の消火器は煙たいと知った小学生



台車を使って被災者を運ぶ訓練



竹と毛布を使った即席担架におっかなびっくり



小学生は避難者役となって中学生の働きを見る



## バングラデシュ

### 【JICA 草の根事業協力：バングラデシュ都市部におけるコミュニティ防災力向上事業】

#### フィリピン、マカティ市にてワークショップ開催

2016年12月13日から16日の4日間、北ダッカ市区長、同職員、大学、消防局、およびアーバンボランティアの計13名が参加し、フィリピン、マカティ市にてアクションプランニングワークショップを開催しました。マカティ市は、市およびコミュニティレベルで防災に取り組んでおり、防災においてアジア地域をリードしています。本ワークショップは、マカティ市の経験に学び、今後北ダッカ市でコミュニティ防災を進めていくための活動計画を策定する目的で行われました。マカティ市での開催は、CITYNET(アジア太平洋都市間協力ネットワーク：事務局ソウル)でマカティ市とダッカ市がともに防災クラスターに属していること、また、SEEDS Asia がマカティ市防災局をパートナーにコミュニティ防災事業を実施していることにより実現しました。

ワークショップ1日目は、ダッカ市の災害リスクを把握するため、SEEDS Asia が6月から8月にかけてBRAC大学の協力のもと実施した、UDRI災害リスクアセスメント調査の結果から市の強みと弱みを確認しました。UDRI調査結果は、ダッカ市では電気や水、道路といった生活インフラが広く整備されていることが強みである一方、災害や防災に関する住民の知識や意識の向上、また、市や区が防災を進めるための制度の整備が課題であることを明らかにしました。また、参加者は、SEEDS Asia が事業を行っている他の国の事例を見ながら、コミュニティ防災活動について理解を深めました。



ワークショップ 2 日目、3 日目は、マカティ市防災局および最小行政単位であるバランガイを訪問し、フィリピンにおける防災の制度枠組や市の取組、バランガイでの防災活動を学びました。また、マカティ市とバランガイの協力のもと、地域防災の手法のひとつであるタウンウォッチングを実施し、その意義や方法を実践から学びました。



バランガイでのマップ作りの様子

最終日には、4 日間の学びを踏まえ、ダッカ市、各区区長、消防局がそれぞれ、現在の課題と目標、そしてその目標を達成するための実行計画を考えました。この 4 日間の研修は、コミュニティ防災に関わる様々な関係者が一堂に会し、ダッカ市の今後のコミュニティ防災について時間をかけて議論する大変良い機会となりました。



4 日間のプログラム後の集合写真



## インド

### 【日本 NGO 連携無償資金協力事業：バラナシ市における参加型コミュニティ防災推進事業】

SEEDS Asia はインドのバラナシ市において「クライメート・スクール (CS)」と呼ばれる、気象や大気汚染の観測装置を設置し、気候変動教育 / 防災教育を地域住民と実施するプロジェクトを実施中です。11 月、12 月は下記の活動を行いました。

#### CS 教員によるタウンウォッチング・トレーニングの実践

11 月下旬、CS の一校であるアグレッセン女子校において、7 月に SEEDS Asia が実施したタウンウォッチング・トレーニングに参加した CS の教員が、自校の生徒 60 名に対して同トレーニングを実施しました。ヒンディ語を中心に授業を展開する同校の教員は、生徒が防災に対する理解を深められるよう、様々な工夫を施しました。例えば、気象や防災に関して説明する際、特定の名称や語句を英語のまま用いることが多いのですが、アグレッセン校の教員は、ヒンディ語の名称や語句を適切に用いて説明に努めました。

生徒たちは、学校や近所の災害リスクや避難場所を確認しながら、災害リスク削減のための斬新なアイデアを次々と出しました。例えば、避難路に関しては、屋上から叫んで助けを求める、屋根を使って新しい避難路を開拓するなどの独自性に溢れる考えが提案されました。

教員と生徒が一体となって、防災について様々な意見を持ち寄る、活発なトレーニングとなりました。



アグレッセン・カンヤ・インターカレッジでのタウンウォッチングの様子

#### CS による主体的な防災活動

12 月上旬、CS の一校であるアーリヤン国際校が独自に「今日の一針、明日の十針：主要 9 つの災害に対する防災」と題する防災に関する催しを実施しました。この活動は、8 月にバラナシに専門家として訪問した京都市立高倉小学校の取り組みを参考に実施したものです。

同校では、生徒自らが気象観測機材から取得したデータを校内で掲示板として紹介したり、高校生が中学生や小学生を集めて生徒によるワークショップを開催したりするなど、活発な取り組みが行われており、3 時間のワークショップには 300 人の生徒が参加しました。SEEDS がイニチアチブを取り始めた防災活動が、バラナシ市で着実に広がり始めています。



アーリヤンのワークショップの様子

#### 第 2 期事業を開始しました

バラナシ事業は、活動の 3 本柱として、CS の整備による実測に基づいた防災 / 気候変動教育、地域防災協議会によるコミュニティ防災のモデルづくり、市民防災活動推進センターによる全市的な防災啓発活動の推進を実施しています。第 2 期事業は、CS による防災教育については、CS 教員が周辺にある 3 校に対して 1 年目で学んだ内容を指導することで、活動の拡充を図ります。地域防災モデルづくりについては、消火訓練、応急処置、水と衛生、気象に関する研修を CS と共に実施し、今後の実践的な防災計画を練ります。防災活動推進センターでの活動については、気象観測・防災情報の分析と発信が可能になり、活動内容がマニュアル化され、また、市内における防災活動推進計画が策定されるよう取り組んでいきます。

引き続き、SEEDS Asia のバラナシ事業に理解・ご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。





バラナシの様子



## ミャンマー

### 【USAID 国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化 共同プロジェクト】

社会福祉救済復興省・復興救済局をカウンターパートとして、ミャンマー国家防災マネジメントトレーニングセンターにおける防災マネジメントトレーニング及び防災に関わる研究や啓発のプロジェクトを実施しています。2016年11月から12月の活動は下記のとおりです。

(※ 共同コンソーシアムメンバー：UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED 他)

技術協力団体：UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA 他)

CCRI (湾岸地域コミュニティの災害回復力調査) 及び CDRI (気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ) のアクション・プランニングに関するワークショップが6県で終了

前号の報告から継続し、10月24日から11月7日の間、エーヤワディ地域の全6県(District)の各地にて、アクション・プランニング・ワークショップを実施しました。このワークショップは、ヤンゴン工科大学及びダゴン大学との連携の下、既に実施したCCRI(湾岸地域コミュニティの災害回復力調査)及びCDRI(気候変動に起因した災害を対象とする対応力評価イニシアティブ)の調査結果をベースとして、防災の対応能力に関わる各区の課題を共有し、今後の防災力向上を目指した施策を協議・計画することを目的に実施しています。12月15日には、両大学より協議内容に関する報告書が提出されました。さらに、2017年1月中に社会福祉救済復興省・復興救済局へ提出し、今後の政策への反映や各区での実施に向けた協議会を開催する予定となっています。



ワークショップ(ヒンダタ区)の参加者

### 移動式防災教室を聴覚障がい者向け特別支援学校にて実施

11月10日、ヤンゴン市内にある聴覚障がい者を対象とする特別支援学校にて、指導員向け防災研修を実施しました。当研修は国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化共同プロジェクトの下、赤十字、ACTEDと連携して行っているもので、聴覚障がいを持つ生徒が通う特別支援学校の指導員が防災教育を生徒に提供できるようになることを目的に実施されました。特別支援学校(Mary Chapman School for the Deaf)のドー・ニユンニユンテイン(Daw Nyunt Nyunt Thein)校長より開会の式辞が述べられた後、SEEDS Asiaが教員向けに移動式防災教室の教材を用いて研修を実施し、その2日後には、研修を受けた指導員が手話を用いて支援学校の生徒に防災授業を実施しました。ドー・ニユンニユンテイン校長は、「継続的な防災教育が重要であり、今後実施していく予定です」と述べ、見たり触ったりしながら楽しく学ぶことのできる移動式防災教室の効果を認識すると共に、指導員を育成することで、障がいを抱える様々な方々に防災に関わる情報を届けることができることを確認されました。



手話を用いて防災について説明する学校教員

### ヤンゴン市内バハンの学校にて移動式防災教室を実施

12月7日、ヤンゴン市内(バハン区)の学校にて、教員向けの防災研修を実施しました。当研修は国家防災マネジメントトレーニングセンターに向けた能力強化共同プロジェクトの下、赤十字、ACTEDと連携して行っています。研修の目的は、教員自らが防災教育を提供できるようになることであり、SEEDS Asiaが教員向けの指導者研修を実施した後、12月8日に実際に自身の生徒に対して防災教育を行いました。受講したマ・キンヤダナテイン(Ma Khin Yadanar Thein)さん(11歳)は、「学んだ知識を私の身の回りの人にも伝えたい。また防災教育を実施して欲しい」と述べ、防災教育で学んだ知識の重要性について確認しました。



防災について説明する学校教員



## フィリピン（セブ）

### 【JICA 草の根技術協力事業：セブ州における地域との連携による防災教育の技術移転事業】

#### 兵庫県教育委員会防災行政専門家のセブ訪問

11月27日～12月2日の6日間にかけて、兵庫県教育委員会事務局より、防災教育行政専門家がセブを訪問しました。この訪問は、1995年の阪神・淡路大震災以降、兵庫県で蓄積された防災教育の知見や経験をフィリピン現地につなぎ、同国の防災教育の更なる発展に寄与することを目的としています。

11月28日、教育省第7地方事務所にて、本事業で対象としている10地区事務所による防災教育進捗状況報告会が開催され、コアチームや、各地区事務所より所長、カリキュラム開発部部長及び防災管理コーディネーターが参加しました。同報告会では専門家より「阪神・淡路大震災の語り継ぎ」をテーマに講義が行われました。講義では、兵庫県で行われている阪神・淡路大震災の語り継ぎに関する取り組みの様子や内容が紹介されると共に、そこに込められるメッセージや教訓、また語り継ぎの難しさや課題についても触れられました。災害の被害や教訓を後世に語り継ぎ、人々の防災意識を啓発し、将来の災害対応に資することの重要性は世界共通で認識されています。しかし一方で、国や地域によって語り継ぎに対する意識に違いがあるのも事実です。フィリピンでは明るく楽観的な国民性もあり、過去の辛い体験を思い起こすことで負の感情に陥ることを避けようとする傾向があります。そのため、災害を語り継いでいくことがまだ一般的ではありません。この講義を通じて、語り継ぎが生命の尊さを伝え、将来の災害に立ち向かう力を育むための防災教育であるというメッセージが伝えられたことは、フィリピンにおける教育従事者の語り継ぎの意識を変える貴重な機会となりました。



災害の語り継ぎの重要性について講義を行う兵庫県教育委員会防災教育行政専門家

#### 第7地方事務所過去の災害メモリアル行事

12月1日、SEEDS Asiaは、教育省第7地方事務所との協働により、過去の災害のメモリアル行事を開催しました。このイベントは、阪神・淡路大震災以降、兵庫県で毎年開催されている追悼事業を参考に、第7地方事務所が発案しました。第7地方事務所が管轄するセブ州において、2013年の台風ヨランダをはじめとする過去の災害による被災体験を風化させることなく、次世代に語り継いでいくためのイベントとして企画されたものです。同イベントでは、第7地方事務所が管轄する地区事務所の職員だけでなく、防災教育モデル校と推進校より教員や代表で選出された児童・生徒を招き、災害のメモリアル展示、防災ソングの作詞作曲、防災ポスター・スローガンづくり、防災エッセイの4部門においてコンテストが実施されました。独創力と創造性に溢れた児童・生徒の作品やステージ発表に、審査員の1人として参列した兵庫県教育委員会の防災教育行政専門家からも高い評価を頂きました。

行事終了後、第7地方事務所の学習管理部長でありコアチームメンバーの一人でもあるエルナー氏は、メモリアルイベントに関して、「今年初めての取り組みだったがとても有意義なイベントであった。来年以降も継続して開催していきたい」と、過去の災害を語り継ぐことへの前向きな姿勢と意欲を伝えました。



過去の災害メモリアル行事にて地区ごとに出版された展示の審査を行う兵庫県教育委員会防災教育行政専門家



## ネパール

### 【一般寄付：2015 ネパール地震被災者支援事業】

#### ドンジャ地区リソースセンターへの備品供与による能力向上支援

前号で報告のとおり、SEEDS Asiaでは、シンズリ郡ドンジャ地区のリソースセンター運営に必要な備品について11月にニーズ調査を実施いたしました。リソースセンターは、郡教育事務所の方針に基づいて学校教員を指導したり、学校の問題を郡の教育事務所に報告したりする機関です。調査の結果、①管轄する36校の教育状況をモニタリングするために必要となるパソコンやプリンタといったIT機器が足りない、②36校から教員を招へいし、訓練を実施するためのプロジェクターや椅子などの研修備品類が足りない、③こうしたモニタリングや研修を実施し、資料を整理するための本棚やキャビネットなどが不足している、ということが判明しました。

そこで、SEEDS Asiaでは、ドンジャ地区リソースセンターによる各学校への指導・管理能力の向上を目指し、2015年ネパール地震で被災した学校の教育復興に寄与する目的で、皆さまからご支援頂いた寄付金を活用し、上記に掲げた備品類を調達し、2016年12月30日に同リソースセンターへの寄贈を行いました。特に、この地区は電力が不安定な地区であるため、パソコンやプリンタといったIT機器が停電時にも使用できるよう、ソーラーシステムも併せて寄贈させて頂きました。

リソースセンターからは、「IT機器やプロジェクターなどの支援により、視覚教材を活用した研修の実施が可能となるので、今後の教員達への指導や研修を効果的にできるようになり、大変ありがたく存じます。特に、このリソースセンターは、郡中心部から離れた場所に位置しているため、オフィス備品の調達ですらままならない状況でしたが、ご支援により、今後の教育に関する事務も円滑にできるようになります。ご支援に大変感謝申し上げます。」といった感謝の言葉を頂戴しました。





日本

2015年4月のネパール地震発生から長期にわたって皆様から頂きましたご厚志により、上記支援が実施できたこと、ここに感謝申し上げます。下記のとおり、SEEDS Asia では、ドゥンジャ地区において、村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクトを実施して参りますので、引き続きのご支援を宜しくお願い申し上げます。



供与物資を載せたトラックは、ヒマラヤ山脈のふもとにあるドゥンジャ地区リソースセンターに向かって、舗装されていない山道を輸送しました



供与物資をリソースセンターの前で荷下ろしした後に記念撮影を行いました

## 【中央共同募金会：村開発委員会における防災対応力強化支援プロジェクト】

### 防災ワークショップに関する現地団体 CDCCS との協議

SEEDS Asia は、2015年4月のゴルカ地震で被災したシンズリ郡ドゥンジャ地区内の3村を対象に、現地団体のCDCCS（Center for Disaster and Climate Change Studies）と協働で、コミュニティの防災能力向上のための支援事業を実施しております。11月から12月、コミュニティ防災に関するワークショップのプログラムをCDCCSと協議・開発するとともに、村開発委員会（VDC）でのワークショップ実施に向けて、対象村を訪問し、現地との調整を進めてまいりました。この結果、対象3村のうち、2017年1月下旬より、最初のプラノ・ジャンガジョリ村で防災ワークショップを実施することとなりました。次号にて、このワークショップの様子について報告させていただきます。

## 【JICA 関西】

### JICA 課題別研修 防災主流化の促進

課題別研修「防災主流化の促進」コースが2016年11月7日から18日までの間、東京、宮城、神戸、で行われました。この研修はSEEDS AsiaがJICAより委託を受け、実施したものです。インドネシア、マレーシア、フィリピン、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、ブータン、フィジー、チリ、イラン、モンゴリア、トルコ、ネパール、ブラジルから21名の防災エキスパートが集まり、日本での防災主流化の促進について、内閣府や内閣官房などの国レベルの政策が、県や市でどのように実施されているか、防災地域計画、インフラ整備、消防、医療サービス、災害復興、などさまざまな視点から学びました。研修生は日本のみならず、研修生同士の出身国での防災主流化に関する教訓についても非常に興味を持ち、積極的に質疑が行われました。最終日には、当研修で学んだことをもとに、研修生は自国の防災主流化の促進のための提言をまとめ、翌日無事帰国の途につきました。研修生からは一つ一つの講義が非常に有益であったという声をたくさんいただきました。



宮城県閑上地区の慰霊碑を訪問する参加者



JICA 関西にて修了式



## Kumamoto Earthquake

### Japan Platform

In Uki city, SEEDS Asia has supported the operation of the Community Mutual Support Center (CMSC), which was established last October. In addition to door-to-door visits and regular tea gatherings at temporary housing, since November, support activities by CMSC have expanded gradually.

### Expansion of the support for earthquake-affected people

Among six temporary housing complexes in Uki city, only three have gathering places. The other temporary housing complexes are at small scale with only about 10-20 households, so there are not available places where the residents find it easy to gather together. Therefore, the CMSC is aiming at exchange opportunities for the residents of temporary housing by borrowing a room from the nearby community center to hold tea gatherings and inviting the residents.

Moreover, support for the affected people who had to move to private apartments has also started. Firstly, surveys will be conducted; after that, there will be consultation through telephone or visits if necessary.

### Building relationship with local community

For a full recovery, the support that focuses on only temporary housing is not enough. If support activities are implemented in cooperation with local community, they will eventually lead to the development of a community that is safe and easy to live for not only the residents of temporary housing, but also for the whole local community in general.

For that reason, the CMSC planned a sticky rice cake pounding event (a popular seasonal communal event at the end of year in Japan) and invited temporary housing's residents to participate in from preparing stage. Moreover, cooperation of volunteer groups, women's association and local junior high school students were also called for and they helped in treating participants with pounded sticky rice cakes and pork Miso soup. There was a comment that pounding sticky rice cakes was a joint activity, so it connected not only the residents, but also the supporters, and brought about sense of unity.



Sticky rice cake pounding event

### Imparting the lessons learnt from the Great East Japan Earthquake

From 6th to 11th December, two staff members from the Volunteer Station in Kesennuma- a partner of SEEDS Asia in the project for the Great East Japan Earthquake and Tsunami were invited to Uki city. They imparted to consulting staff of the CMSC the experience in the disaster, from the support for affected people, to the preparedness and response method. There were talks from various points of view, such as questions and answers in problem cases, or how to concern affected people and take care of mental health of consulting staff. There were comments such as "The explanation was given with detailed examples, so I found it easy to understand", or "I was given strength as my worries as a consulting staff member were listened".



Imparting the experiences of the Great East Japan Earthquake and Tsunami



## Tamba City

### Joint Project with Tamba City for Community Development, CWS Japan (UMCOR)

### The 5th liaison meeting for appointed DRR schools

On 16th December, Tamba City Board of Education, representatives of four appointed DRR schools and SEEDS Asia gathered in the 5th liaison meeting for appointed DRR schools as the final meeting of 2016.



This project planned to create a supplementary teaching book to enable the disaster risk reduction classes based on lessons from the Tamba heavy rainfall disaster in 2014 to be implemented throughout the city. The content of the supplementary book was discussed in this 5th meeting. Especially, for the input of DRR education knowledge of Hyogo Prefecture, two members of EARTH (Emergency And Rescue Team by school staff in Hyogo), which is having activities in Tamba city, also attended the meeting and gave advice on the plan of the book.

After the meeting ended, Tamba City Board of Education and SEEDS Asia continued to discuss. The results were: 1- DRR classes would be conducted using the supplementary book in 1-2 periods for students in lower and upper grades of elementary schools, and junior high schools. 2- The supplementary book would be created with three main parts – “Learn about disasters in Tamba”, “Learn how to respond to disasters”, “Learn about the connection with people”.

The supplementary book is being created so that its dissemination will be made in a workshop for vice principals of all elementary schools and junior high schools in Tamba city in the middle of February 2017. Moreover, training is also being planned to help the supplementary book be utilized when DRR classes are promoted in each school.



Discussion in the 5th liaison meeting

The drill was conducted at 9 a.m, assuming that an earthquake occurred. In the drill, the residents evacuated to the temporary evacuation shelter in their restrictive district, while the making of a list of evacuees as well as emergency distribution of rice were also practiced. In Saichidaka area of Hashikami district, where students of Hashikami Elementary School had observed at their town-watching class, residents practiced using firewood to cook rice for emergency distribution, and also had a fire drill to practice using fire extinguisher at the same time.

In Nagaisohara area, which adjoins Hashikami Junior High School, a DRR Sports Day Event took place. Many games with full of ideas made everyone feel excited and forget about the coldness.

In the afternoon, evacuation shelter setting and operating drill was conducted at Hashikami Junior High School. As they were experienced, the students wasted no time and set up the evacuation shelter in the blink of an eye. Being moved as they looked at how the students in the role of injured people or elderly people were quickly handled, the principal said eagerly: “I would like to show this to other schools, students like these cannot be found anywhere else”. The principal has recently been moved from the central area of Miyagi prefecture to Hashikami district since April 2016, he was surprised at high awareness of earthquakes in Hashikami district. “I will surely show this to my father and brother on school-visiting day next year”, said the principal determinedly.



Through the training, elementary school students learned that fire distinguishers were, in fact, really smoky

## The Great East Japan Earthquake

### UMCOR • CWS Japan

#### Comprehensive disaster risk reduction (DRR) drills in Hashikami District

On 5th November 2016 - World Tsunami Awareness Day, comprehensive DRR drills were conducted throughout Kesenuma City. In Hashikami district, the Hashikami DRR Education Committee, where SEEDS Asia works as an advisor, held several discussions to plan for a drill. On the day, Hashikami Elementary School, Hashikami Junior High School and eighteen (18) neighborhood associations in the district implemented a comprehensive DRR drill together.



Training in transporting affected people by handcart



Nervous with the instant stretcher made with bamboo and blanket



Elementary school students played the role of evacuated people and watched the work of junior high school students



## Bangladesh

### JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Project on Capacity Building for Community-Based DRR in Urban Areas of Bangladesh

#### Action Planning Workshop in Makati City

From 13rd to 16th December, a four-day action planning workshop was held in Makati city, Philippines with attendance of 13 delegates from Dhaka city including officials of Dhaka North City Corporation, ward councilors, Fire Service and Civil Defence, and urban volunteers. Makati city has been working on disaster risk reduction (DRR) both at the city and community level, and the city is leading Asia region in the DRR field. The workshop aimed to draw up action plans for community-based DRR in Dhaka city, learning from Makati's experience.

The workshop in Makati city became possible because of the partnership among Dhaka city, Makati city, and SEEDS Asia. Both cities are members of with the disaster cluster in CITYNET (Asia-Pacific regional network of cities with Headquarters in Seoul, Korea), besides, SEEDS Asia also works with Makati city for its community-based DRR project.

On the first day, SEEDS Asia presented the result of UDRI (Urban Disaster Resilience Index) risk assessment which was conducted from June to August with the support of BRAC University. With the result, the participants discussed disaster risks in Dhaka city and strengths and challenges of the city. UDRI result showed that Dhaka city had high physical resilience as the city had developed good infrastructural base such as electricity, water, and road connection. On the other hand, the UDRI revealed low institutional resilience and the residents' low knowledge and interest in DRR. The delegates also learned about community-based DRR from SEEDS Asia's experiences in various countries.

On the second and third day, the delegates visited Makati City Disaster Risk Reduction and Management Office (DRRMO) and a Barangay (the lowest unit of local government administration) to learn about DRR institutional framework and their initiatives. Town Watching, which is widely used in community DRR, was also conducted in a Barangay for the delegates to learn about its benefits and techniques.



Map-making after town-watching in a Barangay

With the learning and experiences in the 4 days, finally the delegates set up their DRR action plans. The workshop gave the various stakeholders a great opportunity to spend time together and discuss community-based DRR in Dhaka city in the future.



Group photo after the four-day program





## Project Funded by Ministry of Foreign Affairs of Japan (MOFA): Project for Participatory Community-Based Disaster Risk Reduction Approaches in Varanasi

SEEDS Asia has been implementing the project that communities participate in Disaster Risk Reduction (DRR)/ Climate Change (CC) education through 'Climate Schools (CS)' where the machines to assess weather and air pollution are installed. The activities operated in November and December are as follows.

### Town-watching training by CS teachers

In November, town-watching training was conducted for 60 students of Shri Agrasen Inter College for Girls, one of five CSs. The trainers were the teachers who had attended SEEDS Asia's Training for Trainers in July.

The teachers made enormous efforts to deepen their students' understanding of DRR. For example, since Agrasen is a Hindi language medium school where teachers teach classes in Hindi, these teachers properly selected Hindi names and terms for weather and DRR, which were often expressed in English.

The students responded to the endeavour of their teachers. While examining disaster risks and evacuation places around their school and surrounding areas, they brought about various unique ideas to reduce these risks. For instance, standing on the roof might be good to shout for help; alternative evacuation routes could be made by connecting roofs.

In this manner, the enthusiastic participation of both teachers and students contributed to the success of this training.



Town-watching at Shri Agrasen Inter College

### Initiatives on DRR by CSs

In December, Aryan International School, one of the CSs, organised a DRR event called 'A Stitch on Time Saves Nine: Prevention and Precautions on Nine Major Disasters'. This was developed through a hint from Kyoto municipal Takakura Elementary School, whose principal had been invited to Varanasi as a DRR expert in August.

In Aryan School, students are actively engaging in various activities. For example, they have displayed data collected from automatic weather system (AWS) on the notice board; high school students organised a workshop to share what they had learnt about DRR/CC with junior high and elementary school students; in the event mentioned at the beginning, 300 students participated in a three-hour workshop.

The DRR activity that SEEDS Asia initiated has grown up gradually but steadily.



At the workshop at Aryan International School

### The second phase has started

Varanasi project has three components, namely, implementation of DRR/CC Education in CS, development of community-based DRR model and promotion of DRR awareness activities in Varanasi city through the Citizen DRR Activity Promotion Center. In the second phase, CS teachers will provide three neighbouring schools with the training that they learned in the first phase, so that DRR/CC education will be disseminated further. For the communities, together with CSs, four training sessions (first-aid, firefighting, WASH-PHAST and weather) will be conducted in order to make a practical DRR plan. The Promotion Center will analyse and deliver data and information of weather and DRR to Varanasi city, produce manuals for its activities and make a DRR promotion plan for Varanasi city as well.

We greatly appreciate your continuous support for Varanasi project.



In Varanasi



## USAID MCCDDM Project: Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management

SEEDS Asia is working on disaster management (DM) training and research and public awareness of disaster risk reduction (DRR) at Myanmar National Disaster Management Training Centre (DMTC) under the project in cooperation with Relief and Resettlement Department (RRD) of Ministry of Social Welfare, Relief and Resettlement (MSRR). The report on our activities in November and December 2016 is as follows.

(\*Consortium of MCCDDM : UNHABITAT/UNDP/Myanmar Red Cross & American Red Cross/ACTED etc. Technical support agencies in the consortium: UNICEF, HelpAge, Handicap International, ASHOKA etc)

### Workshop on Action-Planning of Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) finished

From 24th October to 7th November 2016, Workshops on Action-Planning of Coastal Community Resilience Index (CCRI) and Climate and Disaster Resilience Index (CDRI) were held in all 6 districts of Ayeyarwady Region in cooperation with Yangon Technological University and Dagon University based on research outcome of the field surveys already conducted. The objectives of the workshops were to share the findings and problems about DRR resilience in each township and to discuss and plan solutions to the problems in order to enhance DRR capacity. On 15th December 2016, both universities submitted drafts of report on the workshops. SEEDS Asia is going to submit them to RRD in January 2017 and to hold a conference to share among the stakeholders and to reflect the results into policy and training.



Participants of workshop in Hinthada Township

### DRR training with Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) at school for children with hearing impairment

On 10th November, in cooperation with Red Cross and ACTED, SEEDS Asia conducted Training of Trainers in DRR education at a school for children with hearing impairment in Yangon in order to help the teachers be able to provide DRR education by themselves.

After the principal of Mary Chapman School for the Deaf, Ms. Daw Nyunt Nyunt Thein, delivered her opening speech, SEEDS Asia started the training by utilizing Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) for teachers. A couple of days later, the trained teachers provided DRR education for their own students at the school by sign language. Ms. Daw Nyunt Nyunt Thein said it was important to continuously provide DRR education and she was planning to do it. She realized the effect of MKRC which enabled the learning through watching, touching and enjoying tools. It was also confirmed that training the trainers who have various means of communication would ensure the access of information on DRR for people with impairment.



A school teacher explaining DRR by using sign language

### DRR training with Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) at middle school in Bahan Township

On 7th December, SEEDS Asia conducted Training of Trainers in DRR education at middle school in Bahan Township in Yangon in cooperation with Red Cross and ACTED under Myanmar Consortium for Capacity Development on Disaster Management (MCCDDM) Project. The objective of the training is to help the teachers be able to provide DRR education for their students by themselves. After SEEDS Asia provided the training with Mobile Knowledge Resource Centre (MKRC) for teachers, on 8th December, the trained teachers provided DRR education for their own students. Ma Khin Yadanar Thein, a 11-year-old student learnt the importance of DRR education and said that she wanted to share what she learnt with people around her and wanted further DRR training.



A school teacher explaining DRR





## JICA Grassroots Technical Cooperation Project: Capacity Building for Disaster Risk Reduction (DRR) through Cooperation between Local Communities and Education Sector in Cebu Province

### Visit of DRR Education Administrative Expert from Hyogo Prefectural Board of Education

From 27th November to 2nd December, the DRR Education Administrative Expert from Hyogo Prefectural Board of Education (BoE) visited Cebu to share the accumulated knowledge and experiences of Hyogo Prefecture since the Great Hanshin-Awaji Earthquake in 1995 in order to contribute to further development of DRR Education in the Philippines.

On 28th November, DRR Education Progress Reporting of 10 Department of Education (DepEd) Schools Division Offices (SDOs) was held at DepEd Regional Office VII. The DRR Education Core Team, Schools Division Superintendents (SDS), the chiefs of Curriculum Implementation Department (CID) and DRRM Coordinators from 10 DepEd Divisions which superintend the DRR Education Model and Promotion Schools participated in this meeting. A lecture whose theme was "Passing Down the Experience of Great Hanshin-Awaji Earthquake" was provided by the expert. In the lecture, situations in the Earthquake and initiatives on passing down the event of the Great Hanshin-Awaji Earthquake were introduced. At the same time, the messages behind passing down the experience of the disaster, lessons learnt, difficulties and challenges of such initiatives were shared to the participants.

The importance of passing down the lessons learnt from past disasters in order to enhance DRR awareness of people and to be prepared for future disasters is recognized worldwide. On the other hand, there is a gap in such consciousness of passing down depending on countries and regions. The major ethnic character in the Philippines is bright and optimistic, which causes tendency to avoid falling into negative emotions through recalling past experiences. For that reason, it has not yet been common to pass down past tragedies including disasters. This lecture was a valuable opportunity to change the consciousness of the Philippine educators through the message that passing down the past disasters is the DRR Education which teaches the preciousness of life and nurtures the ability to take action proactively towards future disasters.



Lecture on importance of passing down past disasters by  
DRR Education Administrative Expert from Hyogo Board of Education

### Regional Event on Commemorating Past Disasters - "Pasundayag"

On 1st December, a regional event on Commemoration of Past Disasters "Pasundayag" was held at DepEd Regional Office VII. Learning from the memorial events held annually in Hyogo Prefecture since the Great Hanshin-Awaji Earthquake, DepEd Regional Office VII suggested holding this event to avoid the experiences of the past large-scale disasters such as Typhoon Yolanda of 2013 fading away. At the event, the teachers and representative students who were chosen by DRR Education Model and Promotion Schools were invited as well as DepEd SDO personnel under DepEd Regional Office VII. The contests were held in four (4) categories: DRR Memorial Exhibit, DRR Jingle, DRR Poster and Slogan Making, and DRR Essay. DRR Education Administrative Expert from Hyogo Prefectural Board of Education who attended as one of the judges gave high praise for students' work and stage presentations which were full of creativity and originality. After this event, Mr. Elnar, who is a member of DRR Education Core Team and the chief of Curriculum and Learning of Management Division (CLMD) of DepEd Regional Office VII said: "It was our first effort but also a very meaningful event and I would like to hold it continuously from next year", and conveyed a positive attitude and motivation towards passing down the experiences of the past disasters.



DRR Education Administrative Expert from Hyogo BoE judging the  
DRR Exhibits by each DepEd SDO at Regional Disaster Commemoration Event



## General Donation: Support for people affected by Nepal Earthquake in 2015

### Support for the improvement of the Resource Center in Dumja through the provision of equipment

As reported in the previous newsletter, SEEDS Asia implemented a needs assessment for necessary materials for the operation of Resource Center in Dumja, Sindhuli in November. A Resource Center is an agency which instructs school teachers based on the policy of District Education Office (DEO) and reports matters of schools to respective DEO. The assessment results were confirmed as follows: 1- IT equipment such as PCs and printers for monitoring educational condition in 36 schools under the management of the Center was insufficient; 2- Training facilities for inviting teachers from 36 schools and implementing training, such as projectors and chairs, were insufficient; 3- Bookshelves and cabinets for organizing documents were insufficient.

Therefore, in order to improve the capacity for instructing and managing schools of the Resource Center in Dumja area, SEEDS Asia provided the mentioned facilities to the Center as a donation on 30th December 2016, using the donations SEEDS Asia had received from Japanese people to support the recovery of education of the schools affected in Nepal Earthquake in 2015. Especially, as this area has unstable electricity condition, solar systems were also provided to enable IT equipment such as PCs and printers to be utilized even during power outages.

"We are very grateful for the support in IT equipment and projectors, because from now we can implement the training using visual teaching materials, that will make the instruction and training for teachers more effective. Especially, this Resource Center is located far from central area of the district, even the supply of office equipment seems impossible, but with this support, education-related office work will also get smoother. We are very grateful for the support." - The Resource Center expressed their gratitude.

SEEDS Asia would also like to express our gratitude to our supporters, as we could not carry out the above support without your kind intention and support during a long time since the Nepal Earthquake occurred in April 2015. As mentioned below, SEEDS Asia is implementing the project on capacity building of disaster risk management for Village Development Committees in Dumja area. We would be grateful for any support we may receive from you in the future.



The truck transported donation materials through unpaved mountain roads towards the Resource Center in Dumja area at the foot of the Himalayas



Commemorative photo taken after donation materials were unloaded in front of the Resource Center

### Project Funded by Central Community Chest of Japan: Project on Capacity Building of Disaster Risk Management for Village Development Committees

#### Discussion with local organization CDCCS about CBDRM workshop

SEEDS Asia is implementing the project on building community's capacity for Disaster Risk Management (DRM), targeting three villages in Dumja area, Sindhuli District that were affected in the Gorkha Earthquake in April 2015 in cooperation with the local organization Center for Disaster and Climate Change Studies (CDCCS). From November to December, SEEDS Asia had discussions with CDCCS about the program of the workshops on community-based DRM. Besides, in order to prepare for the implementation of workshops at Village Development Committees (VDC), SEEDS Asia also had visits to the targeted villages to make arrangements. As the result, in Purano Jhangajholi VDC- the first VDC among three targeted ones, a workshop will be held in January 2017. This workshop will be reported in the next newsletter.





## JICA Training: The Knowledge Co-Creation Program

### Promotion of Mainstreaming Disaster Risk Reduction

The training in Promotion of Mainstreaming Disaster Risk Reduction (DRR) was organized by JICA in cooperation with SEEDS Asia from 7th to 18th November 2016 in Tokyo, Miyagi, and Kobe, Japan. 21 DRR experts from Indonesia, Malaysia, Philippines, Myanmar, Bangladesh, Sri Lanka, Nepal, Chile, Iran, Bhutan, Fiji, Turkey, Mongolia and Brazil learned about the promotion of mainstreaming DRR in Japan at national level policy (Cabinet Office and Cabinet Secretariat) to local government implementation (prefecture and city level) from various aspects such as investment, infrastructure, firefighting, medical services, and disaster reconstruction. The participants were very interested in and asked actively about lessons in mainstreaming DRR not only in Japan but also in each other's home country. On the last day, based on what they had learned during the training, the participants summarized the recommendations about how to promote mainstreaming DRR in their respective countries. Many participants told us that this training was very beneficial for them because it helped them find keys to success in promoting mainstreaming DRR in their own countries.



Participants visiting a memorial monument in Yuriage District, Miyagi Prefecture



Completion ceremony at JICA Kansai